

令和8年度の研究の方向

県小算研テーマ 見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

岐阜県小中学校教育研究会 小学校算数科研究部会

1 令和8年度の県のテーマについて

学習指導要領における算数科の目標は、「**数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成すること**」とされ、

- (1) 知識及び技能に関する目標
- (2) 思考力、判断力、表現力等に関する目標
- (3) 学びに向かう力、人間性等に関する目標

という3つの柱で整理されている。

この3つの柱で捉えた資質・能力は、数学的な見方・考え方と数学的活動に相互に関連をもたせながら、育成することが重要と考えられている。

また、第4次岐阜県教育振興基本計画（令和6年3月）では目指す人間像として「**「ふるさと岐阜」で育んだ自信と誇りを胸に、よりよい未来の実現に挑み続ける人**」を掲げ、育みたい力として「**自立力（主体的に学び、考え、行動する力）」「共生力（つながり、認め合い、支え合う力）」「創造力（よりよい未来を築いていく力）」**を挙げている。また、岐阜県小中学校教育研究会では、「**未来に向けて社会の創り手となる児童生徒の育成を目指す学校教育の創造**」をテーマに掲げ、①児童生徒の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育む指導改善の推進、②児童生徒の豊かな心や健やかな体を育む教育の充実、③「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」を一体的に充実し、「**主体的・対話的で深い学び**」の実現に向けた授業改善の推進（教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進）を挙げている。

これらを受け、本部会は「**見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方**」をテーマに研究を進めてきた。各研究調査部及び各郡市の報告からは、算数科の学習内容の系統性を整理することで単元の学習内容をより明確にできることや、学習課題を見直すことで数学的に考える児童の姿に迫ることができることが分かった。また、数学的活動の改善を進め、協働的な学びや個別最適な学びの視点からの指導の工夫やICTの活用も取り入れた実践が多く見られた。そこで、来年度も学習内容と学習方法の両面から研究を進め、県の研究テーマは継続し、各郡市では、実態に合わせた研究テーマを設定して研究を進めていけるようにしたい。

県小算研テーマ(案)

見方・考え方を働かせ、 数学的に考える児童を育てる指導の在り方

2 研究の視点について

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える資質・能力を育成していくために、以下の2つの視点から研究を行っていく。

- ①児童の学習内容の系統性を踏まえ、単元や単位時間のねらいや学習課題の具体化
- ②児童の主体的・対話的で深い学びを実現するための単元や単位時間における手立ての充実

- ①児童の学習内容の系統性を踏まえ、単元や単位時間のねらいや学習課題の具体化

授業を構想するときには、「この単元や単位時間では児童にどのような資質・能力を育むのか」を明確にすることが重要である。そのためには、算数科や数学科の学習内容の系統性に着目し、教師はその単元の学習内容だけではなく、小・中学校9年間の学習内容についても考慮して構想する必要がある。児童の学習内容の系統性を踏まえることで、その単元や単位時間において児童がどのような見方・考え方を働かせて、どのような資質・能力を高めていくのかをより明確にすることができる。数学的に考える児童を育てるため、単元で育みたい資質・能力や単位時間のねらい、学習課題を明確化かつ具体化していくことを大切にしたい。

- ②児童の主体的・対話的で深い学びを実現するための単元や単位時間の手立ての充実

①において、単位時間のねらいや児童の学習課題が具体化されたとき、児童がどのようにその内容を学ぶと効果的かを考える必要がある。まず児童が本時の見通しをもつ導入や課題づくりの過程や学びを確かめたり、深めたり、広げたりする終末の過程など、それぞれの授業過程の意図を明確にしたい。そして、教師が児童の発言に問い返したり、「根拠」「解釈」「統合」「発展」の観点から発問したりするなど、教師の手立てを一層充実させていきたい。さらに学習活動に児童同士の対話を中心とした活動や、ICTを活用した活動を効果的に取り入れ、個別最適な学びや協働的な学びを充実させ、授業改善していくことに取り組んでいきたい。